

ジヨウビタキ



東町にて

(撮影：桐原佳介)

毎年、コハクチヨウの到着とほぼ同時に山陰にやってくる小鳥がいます。その名は、ジヨウビタキ。「紋付鳥」とも呼ばれ、オスの翼に白い紋が目立つことが由来とされています。大きさはスズメサイズで尾が少し長く見えます。

私は、この愛らしい訪問者がいつ南部町にやってきたかを、5年前から記録をつけています。平成16年10月18日、平成17年10月24日、平成18年10月26日、平成19年10月19日、平成20年10月19日、そして今年は10月20日に鳴き声を確認しました。振り返ると10月の第3週に集中しているようです。この時期私は、いつも「そろそろだわ」とそわそわした気分で耳をすませています。

ジヨウビタキの鳴き声は、少し高い声で「ヒッ…、ヒッ、ヒッ、ヒッ」と乾いた空気の中でよく聞こえます。ところが、この声とそっくりなルリビタキという小鳥も、冬鳥として南部町にやってきます。その名の通り青い鳥です。オレンジ色のお腹を持つジヨウビタキは、畑や植え込みのある庭など、人の

生活圏でよく見かけます。一方ルリビタキは、森や林の端っこが好きな印象があります。どちらか会えたら嬉しい冬の使者です。今年初めて聞いた「ヒッ、ヒッ」という鳴き声は、民家の庭先から聞こえてきたので、恐らくジヨウビタキノの声でしょう。

ジヨウビタキは、寒さをしのぐ場所を決めるとなわばりを作りまします。私が住んでいる場所から、保育園までの約800メートルの道のりの間に、ある年ではオス3、メス3の計6羽のジヨウビタキが毎朝通園路で出迎えてくれました。しかし、この数年は町内でも見かける数が少なくなつたように思えます。

彼らは、庭木の赤いピラカンサやナンテンの実を食べながら、翌年の春までこの町に滞在し、ゴールデンウィークの頃、生まれ故郷のシベリアやモンゴル地方へ帰って行きます。今年の冬も我が家の庭に遊びに来てね、と熱い視線を送っているところですよ。

自然観察指導員 桐原真希